

●【2014 現闘】13 項目の要求書を提出 — 10 月 24 日を基準日に設定



▲ 要求書を手渡す、上谷委員長（右）

市従は9月30日、市側に対し「2014 自治労現業統一闘争に関する要求書」を提出した。

自治労は2014 現業・公企統一闘争の基本目標を「職の確立と市民との連携による、自治体の責任に基づく現場力を生かした質の高い公共サービスの確立」として全国での取り組み体制の強化をはかっていくとともに基準日を10月24日に設定、市従は自治労の基本目標にもとづき個別具体13項目の要求について申し入れを行った。

市従は冒頭、この間、経営形態の変更にもなう組合員の勤務労働条件については本部一人事室間の交渉事項であることを指摘してきたが、一方的に各所属から当該支部に対し組合員の勤務労働条件を提案するに至っている事態について「不誠実な対応と受け止めざるを得ず強い憤りを覚える」と厳しく指摘、早急に本部に対し勤務労働条件を提案するよう強く要請した。また、来年度の業務実態にもとづく適正な要員配置についてふれ「組合員の勤務・労働条件を変更する場合は労使合意を前提に交渉事項として誠意を持って対応し、支部一所属間での十分な交渉・協議が尽くすよう強く求めるとともに、全市的な対応が生じる場合には本部一人事室間で十分な交渉・協議を行うよう」とあらためて要請した。

「給与制度改革」などによる大幅な給与水準の引き下げで組合員が厳しい生活を強いられていることや、職務給の原則にもとづく給料表体系が崩れ職務給とはいえない職場実態によってインセンティブやモチベーションの低下を招いていると明らかにしたうえで『働きがい・やりがい』を持てるよう、技能労務職給料表1級から2級への昇格条件を改善するなど人事制度と給与制度は一体のものとして確立するべき」と強調、具体的な検討内容を提示し誠意ある回答を示すよう強く求めた。「雇用と年金の接続」にかかる高齢者雇用のあり方については、技能職員の業務実態を十分ふまえた職場環境の構築など、高齢者雇用制度の確立にむけ、労使合意を基本に誠意をもって十分な交渉・協議を行うよう強く求めた。

労働安全衛生対策については、依然として公務災害が多数発生していることや休職から復職後の再休職者数が増加傾向にあることから市側の取り組みについての考えを明らかにするよう求めるとともに、作業服等の貸与については、業務実態に応じた作業服の改善にむけ都度の検

証が必要であるとして市側の認識をただし、労働安全衛生および作業服等にかかる個別具体課題については今後、十分協議・検討をはかっていくよう要請した。

これに対し市側は、経営形態の変更にかかわり「経営形態の変更や施策事業の再構築にともなう職員の勤務労働条件については各所属の事務事業にかかわる事であるため、現在、関係所属で検討を行っている。提示できる内容が決まり次第、各所属から交渉で示している。人事部としても、状況把握をしたうえで関係所属と連携をはかり、全市的な対応が必要な場合は本部と誠意をもって交渉を行っていききたい」と答えた。

また、業務執行体制の構築については「職制がみずからの判断と責任において行う管理運営事項であるが、職員の勤務労働条件の変更については交渉事項として誠意をもって対応させていただきたいと考えている。具体的な交渉については各所属に委任することとし、全市的な対応が必要な場合には本部と誠意をもって交渉を行いたい」と答えた。

技能労務職給料表 1 級から 2 級への昇格条件については「職員の職務意欲の維持・向上をはかることは必要と考えている。昇格制度については引き続き皆さん方と協議していききたい」、「雇用と年金の接続」については「職員が無年金期間の生活に不安を覚えることなく、職務に専念できる環境を整備することは必要であると考えており、本市では再任用制度で対応することとしている。具体的な要件は、勤務成績が良好であり、任用する職の職務遂行に必要な知識・経験を有し、公務内の職務を遂行できると認められる者のなかから選考により任用することを予定している。具体的な活用は、職員の勤務労働条件に関することは皆さん方と協議していききたい」との考えを明らかにした。

労働安全衛生対策については「職員の安全衛生対策を適切に講じることは市政の円滑な推進にも寄与するもの。法令順守の観点・公務災害を未然に防止するという観点から取り組みを進めるとともに、心の健康づくり対策についても引き続き取り組みを進めていききたい」、作業服等の検証については「必要に応じて実施していききたい」と答えた。

市側は最後に「いずれにしても、本日の申し入れについては予備交渉の確認のもと、今後、皆さん方と協議を行い、関係局とも連携をはかりながらあらためて回答したい」と述べ交渉を終えた。

● 劇場型政治に終止符を — 知事・市長選勝利へと結実



自治労大阪府本部は 4 日、シティプラザ大阪で第 59 回定期大会を開き、249 人（内、女性 54 人）の代議員が出席するなか向こう 1 年間の運動方針を確立した。

主催者あいさつに立った石子雅章・執行委員長は冒頭、大阪市の職員アンケート事件や組合事務所問題についてふれ「いまからが正念場のたたかい。この間の皆さんのご協力に感謝申し上げるとともに以降のたたかいへの結

集をお願いする」と呼びかけた。

また、自民党政権が推し進める新自由主義、軍国主義復活路線との対決について「集団的自衛権行使を容認する閣議決定を強行したことは、立憲主義を否定し民主主義をないがしろにする歴史的暴挙だ。平和フォーラム・関西ブロック・大阪平和人権センターに結集し取り組みを

展開したい。11月9日には大阪平和人権センター主催の『戦争策動に反対する集会』に参加し、提起される大阪での『戦争させない1000人委員会』の立ち上げにも賛同していきたい、来春の統一自治体選挙については「民主・リベラル政治勢力の再生を勝ち取り、橋下・大阪維新の会による『劇場型政治』の台頭に終止符を打たなければならない。来るべく『大阪府知事・大阪市長』選挙の勝利へと結実させていく」との決意を訴えた。

経過報告・2014年度運動方針の各討論では、経過・運動方針あわせて計8単組から発言が出された後、すべての議案を賛成多数で承認した。

経過報告では、市従の日吉一彦・書記長が発言に立ち、この間の大阪市問題における係争事件の報告と協力に対する御礼を述べるとともに、経営形態の変更・事務事業の見直しに対する取り組み、来年の政治闘争に全力でたたかう決意を表明し、府本部ならびに各単組へ協力を要請した。

これに対し府本部の高橋篤・書記長は答弁で「この間のたたかいに対し敬意を表したい。橋下維新の会を打倒し、より良い大阪府・市政の構築にむけ、自治労本部へも協力を要請するとともに、市内単組だけでなく府下の各自治体単組とも一致団結してたたかっていきたい」と述べた。

役員体制では市従出身の石子委員長、栗本正則・執行委員（本部）、西川徹二・執行委員（本部）、青野敬治・執行委員（本部）、武田英作・執行委員（市民生活支部）が再任、特別執行委員には南部美智代・連合副事務局長、井上光弘・全労済自治労共済大阪府支部事務局長が選任された。

最後に、石子委員長の団結がんばろうで大会を締めくくった。

(写真 = あいさつする石子委員長)

● 新議長に寺西さん（学給労） — 活動方針も満場一致で確認



自治労大阪府本部市内第3ブロック共闘会議（市従・大交・学職労・学給労）は3日、大阪市内で第26回定期総会を開き2014年度活動方針を満場一致の拍手で確認、役員体制では寺西由記江・副議長（学給労）が新議長に就任した。

主催者あいさつに立った中山久雄・議長（大交）は「今日の社会はこれまでにないスピードで変化しており市民・住民が求める公共サービスも変化している。労働組合も同様であり、立ち止まることなく前進していかなければならない」と述べた。

来賓あいさつに駆けつけた、自治労大阪府本部の石子雅章・執行委員長は「大阪市問題は職員アンケート事件、組合事務所退去事件など、この間、勝利してきている。残る課題についても全力で取り組んでいきたい」と訴えた。

その後、青野敬治・事務局長より2013年度経過報告・会計報告、2014年度活動方針を提案し満場一致の拍手で採択した。とくに方針では2014現業・公企統一闘争の推進など、自治労方針にもとづき府本部に結集し、3ブロックの意思統一をはかりながら、たたかいを強化していくことなどを確認した。

役員体制では市従の上谷高正・副議長、西川徹二・副議長、青野敬治・事務局長、吉田隆一・

会計兼事務局次長らが再任となった。最後に寺西新議長の団結がんばろうで総会を締めくくった。

総会には4単組から約50人が出席した。

●【公園支部Vネット】石巻市へ支援行動 — 12人が交流はかる



【公園支部発】市従公園支部は1995年に発生した阪神淡路大震災を契機として、組織ボランティアの必要性から「Vネット委員会」を立ち上げ、この間、神戸の被災地障がい者センターをはじめ、現地の障がい者団体と連携した取り組みを継続して行っている。

2011年の東日本大震災の際にも現地の障がい者団体からの要請のもと、宮城県登米市にあるNPO法人「奏海の社」（旧・被災障がい者センターみやぎ）に約3か月のローテーションでのべ45人が常駐し、宮城県下の被災地の方々への支援活動を行ってきた。

今年の7月27～28日にかけては、宮城県石巻市の中瀬公園で開かれた現地の障がい者団体も参加する「(第1回)みちのくによっきりフェスタ in 石巻」に、当時のボランティア活動におもむいたメンバーを中心に参加し、バルーンアートなどを披露、参加者と会場を大いに盛り上げるなど交流をはかってきた。また、被害のひどかった被災地へも訪れ、復興の状況を学んだ。



フェスタに参加したメンバーは「フェスタでは上手く交流がはかれるのか心配だったが、参加していくなかで地域の方々や参加者の温かい声かけなどで不安がなくなった」、「3年前の支援活動の時よりも道路や街並みが復興を遂げていたが、津波の跡がそのまま残されているところもあり、あらためて恐ろしさを感じた」、「復興は進んでいるように見えるが、自分が見てきたなかでは一部分に過ぎない。今後、何ができるのか分からないが積極的に支援を続けていきたい」、「実際に被災地を目で見て感じたことやイベントでのつながりを、ほかでも伝えていきたい」、「大阪の地でも人と人のつながりを大切に活動を行っていきたい」、「ボランティア活動を経験し、活動以上のものを成果として持ち帰ることができた」などと感想を述べた。

Vネット委員会からは12人が参加した。

● あふた〜ざか〜にばる

みんなの「おもしろいあだな・愛称3」…破壊王…チーボー…みやーん…つつん…ヒロ…メルシー…もー牛谷…ゴリラーマン…キャシャーン…あーたん…たーさん…ねずみ男…マキマキ…ジョージ…のぶえちゃん…りゅう…あつちゃん…パラちゃん…チエコはん…ぼんちゃん…オムそば…ぎゃん…バード…鉄仮面…べち…ミンミちゃん…ドカベン…プラグ…ハラピー…オーメン…みぞ…へろ…ミツコはん…大明神…サキッチョマン…がりがり君…ナベちゃん…ボンサン…ケムヤン…ムック…おっくん…やっきーな…珍太郎…つよポン…ルーニー…ちゅうちゃん…背あぶら…鬼足（笑）…（JOE）